

「研修会等名称」

関西大学・大阪府立大学 AP 合同フォーラム 「学士課程教育における内部質保証システムの構築にむけて —3つのポリシーと学修成果の可視化の連動性に着目して—」

場所：関西大学梅田キャンパス

期間：2017年2月9日 14:00-17:00

1. 研修の内容

文科省の入試改革と教育改革を背景に、大学に今後求められる可能性のある、内部質保証システムの構築についての研修であり、すでに先進的に取り組んでいる大学の事例報告であった。

内部質保証とは今の外部からの大学認証評価を、各大学が積極的に自己チェックできる体制を作って進めるものであり、そのためには、各大学のチェック体制と教育の測定の体制の構築が求められる。

先進的に取り組んでいる大学では、教育学者を中心に、高等教育開発センター、教育推進部等の名称の組織を作り(従来のFD組織をさらに拡張したもの)、特に、学生調査を綿密に行っている。従来の授業評価より詳しい、授業や学生の実態調査を行って、3つのポリシーとの関連で、カリキュラム作成単位にフィードバックしている。

3つの大学の事例は、それぞれの大学の個別の事情を反映し異なったものを示していた。ただ、どの事例でも、推進部の取り組みに対して、全学的取り組みはまだまだ遅れており、ギャップが見られた。この分野の研究者の川嶋氏によれば、海外での取り組みが先行しており、教育学的観点から、学生調査を通して、履修カリキュラムの組み立て方のチェックと修正などに結びつくケースも存在する。アクティヴ・ラーニングと呼応して、学生の学びのつまずきをより明確に確認しようという作業の意図が見られた。

2. 研修の成果

現在、愛知大学の学習・教育支援センター委員会でも、授業評価をどう分析するかが課題となっている。「授業評価疲れ」と久しく言われたように、評価だけでは学生によけいな労働を負わせているだけであり、それを改善に繋げなければ意味がない。もちろん、現在でも、少人数教育や演習形態の方が授業満足度が高い等の結果は出ているが、実際、現在の結果を分析するにあたって、どのような分析方法があるのか、課題であった。

今回の研修は、このような課題に対して、一つの答えを示しているだろう。というのも、一つ一つの科目は、3つのポリシーと繋がった教育課題の達成と関わっており、どの個別の授業やどの個別の教員の授業が上手い・下手、人気・不人気という話ではないからである。学生にとっての成果が出ているかどうかを確認し、改善についても、一つ一つの授業の満足度をただ評価値として上げるということだけでなく、授業計画やカリキュラム全体との関係で、学生が課題を達成したり能力を高めているかのチェックが必要だからである。

先進的な他大学が実験的取り組みを行っていることの発見は、今後の進め方にとっての示唆となるだろう。

3. 授業への研修成果の反映状況

社会学コースでは、退職された渡辺正先生が、いち早くポートフォリオを使用されていた。その内実についてご教示を仰ぐ機会を逸したのが残念だが、学生の包括的自己評価を取り入れ、またコースにおいては、学生の実態調査をしたいと話合っている。今回の研修を生かせるかと思う。